



保健衛生の向上

すず
木
つぎ
次
お
男

(82歳)

住所

秋田市

鈴木氏は、長年にわたって結核の予防と治療に意を注がれ、昭和26年結核診査協議会の委員長、昭和30年には結核性疾患入退院審議会の委員長を歴任し、結核検診の推進と予防組織の育成に尽くすほか、昭和31年には県医師会長となって県内の医療体制の整備に尽力し、本県の医療及び保健衛生の向上に大きく貢献している。

また、昭和35年から秋田県公安委員長として公安行政の推進に努め、民生の安定に貢献している。



民俗芸能の保存育成

た ひで くち
田 口 秀 吉

(76歳)

住所

仙北郡田沢湖町

田口氏は、長年にわたって民俗芸能に関する研究・指導にあたり、特に戦後は民俗

芸能の復活を図って郷土芸能振興会及び民俗芸能協会を創設して運営にあたり、伝統

芸能の保存育成に貢献している。

この間、氏の指導による芸能が、県内外の各種民俗芸能大会で優秀な成績を収めた

ほか、著書「民謡のおぼない」「田沢湖町史」等を通じて、本県の郷土芸能を学術的

見地から全国に紹介するなど、地方民俗芸能の保存振興に大きく貢献している。



内水面漁業の振興

よこ
横山
やま
せん
し
ろう
善四郎

(76歳)

住所

由利郡象潟町

横山氏は、昭和27年以来水産資源の維持培養と内水面漁業の振興を図るため、私財

を投入し、率先して虹鱒養殖技術の研究に取り組み、幾多の試練を経て事業化に成功、

地域住民に対してその養殖技術を普及指導するとともに、地場産業として定着化を図

るなど、本県の内水面漁業の振興と経営安定のため大きく貢献している。



野 球 の 振 興

さとうこうすけ
佐 藤 幸 助

(75歳)

住所

秋田市

佐藤氏は、大正15年以来県野球協会の理事として運営に参画し、審判員としても活

躍、戦後は同協会の副会長として、また、昭和21年に自ら県軟式野球連盟を組織し、

会長となって組織の運営指導にあたり、更に、高等学校野球連盟の副会長をつとめ高

校野球の充実発展に尽くしている。

また、30年間におよぶ野球審判資格審査委員長を通じて審判員の認定制度の確立、

後進の養成と資質の向上に尽くしたほか、ラジオ・テレビではマナーに徹した野球解

説者として、愛される野球の普及振興に大きく貢献している。



林業の振興

いけ だ せい じ ろう
池 田 清 次 郎

(75歳)

住所

秋田市

池田氏は、昭和4年から27年間にわたって林業行政の推進にあたり、秋田県林務部長を退職後、県森林審議会長をつとめたほか、林業普及協会、林業育成協会の設立指導に尽くし、特に、学校植林、緑化運動を指導奨励し、また、社団法人木材産業協同組合連合会の設立に尽力して地場産業の育成を図るなど、本県の林業の振興に大きく貢献している。



農業の振興

やま もと き しち ろう
山 本 喜七郎

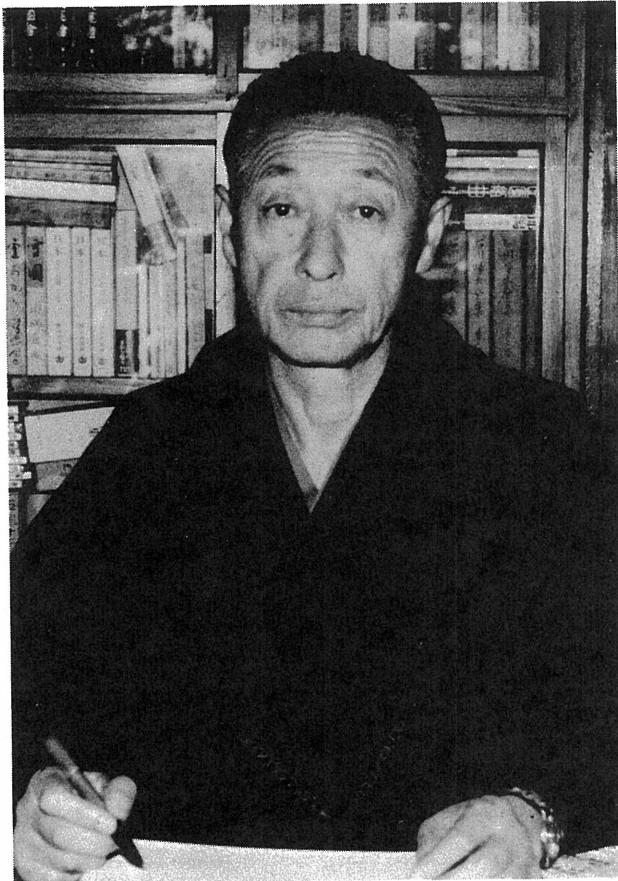
(70歳)

住所

鹿角市

山本氏は、昭和41年の米作り日本一であるほか、五石会会長として稲作栽培技術の普及と集団化を推進し、安定多収技術の定着化に尽力し、さらに果樹（リンゴ）の防除の共同化、品種の更新を積極的に推進した。

また、集落農場化推進友の会の会長として集落農場化方式による生産集団の管理運営、拡大作物の定着化と後継者の育成に努めるなど、本県の農業の振興に大きく貢献している。



文筆活動による文化の向上

相 場 のぶたろう
信 太 郎

(65歳)

住所
秋田市

相場氏は、早くから郷土史の研究に努め、昭和17年の「村里歳時記」など数多くの著書を著わすとともに、郷土史料の発掘にも尽くしている。また、昭和10年には随筆同人誌「叢園」の創刊に参画、戦後は同誌の企画編集にあたり、本年は100号を刊行するなど、多年にわたって後進の指導育成に尽くすとともに、版画家勝平得之の画業の紹介にも尽力するなど、広範な文筆活動を通じて本県の文化の向上に大きく貢献している。